

Economic Indicators

発表日: 2020年5月21日(木)

貿易統計(2020年4月)

～新型コロナウイルス感染拡大の影響がより鮮明に、世界的な経済活動制限で輸出が大幅減～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL: 03-5221-4524)

	貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量					
			輸出金額	輸入金額										
	原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	アメリカ	EU	アジア	前年比	アメリカ	EU	アジア		
19年	5月	▲ 9,654	▲ 3,352	▲ 7.7	▲ 1.5	▲ 8.9	▲ 0.8	▲ 5.4	▲ 11.8	▲ 1.2	5.8	8.5	▲ 2.9	
	6月	5,881	782	▲ 6.6	▲ 5.2	▲ 5.5	2.9	▲ 6.1	▲ 5.3	▲ 3.2	2.9	▲ 6.2	▲ 3.7	
	7月	▲ 2,539	▲ 787	▲ 1.5	▲ 1.1	1.4	10.1	5.7	▲ 5.0	6.6	9.4	0.9	8.3	
	8月	▲ 1,522	▲ 902	▲ 8.2	▲ 11.8	▲ 5.9	▲ 3.5	▲ 1.5	▲ 8.9	▲ 6.1	▲ 3.0	▲ 3.3	▲ 4.1	
	9月	▲ 1,291	▲ 398	▲ 5.2	▲ 1.4	▲ 2.3	▲ 4.0	3.7	▲ 6.0	6.7	▲ 1.0	8.8	8.1	
	10月	112	▲ 700	▲ 9.2	▲ 14.7	▲ 4.4	▲ 6.7	▲ 8.4	▲ 7.1	▲ 6.1	▲ 7.6	▲ 10.3	▲ 7.0	
	11月	▲ 884	▲ 1,321	▲ 7.9	▲ 15.6	▲ 5.0	▲ 9.7	▲ 10.3	▲ 2.7	▲ 8.1	▲ 1.4	▲ 10.6	▲ 8.5	
	12月	▲ 1,591	▲ 1,572	▲ 6.3	▲ 4.8	▲ 1.9	▲ 11.4	▲ 7.4	0.5	1.2	▲ 5.0	2.5	0.5	
	20年	1月	▲ 13,151	▲ 2,457	▲ 2.6	▲ 3.6	▲ 1.6	▲ 8.9	▲ 9.1	▲ 1.5	▲ 1.7	▲ 19.9	1.2	0.3
		2月	11,066	3,615	▲ 1.0	▲ 13.9	▲ 2.4	▲ 4.5	▲ 9.7	▲ 0.9	▲ 17.3	▲ 11.1	▲ 8.5	▲ 25.0
		3月	54	▲ 3,809	▲ 11.7	▲ 5.0	▲ 11.2	▲ 15.9	▲ 9.1	▲ 10.5	▲ 2.5	▲ 1.8	▲ 2.6	▲ 2.6
		4月	▲ 9,304	▲ 9,963	▲ 21.9	▲ 7.2	▲ 21.4	▲ 36.8	▲ 27.7	▲ 11.8	1.3	4.2	▲ 0.2	5.6

(出所)財務省「貿易統計」

○輸出が前年比▲21.9%と大幅な減少、世界的な経済活動制限の影響がより鮮明に

財務省より発表された4月の貿易統計によると、貿易収支は▲9,304億円の赤字(コンセンサス:▲5,316億円の赤字、レンジ:▲10,519億円～▲493億円の赤字)となり、コンセンサスを下回る結果となった。輸出金額は前年比▲21.9%(コンセンサス:▲23.1%、レンジ:▲26.9%～▲18.1%)、輸入金額は同▲7.2%(コンセンサス:▲13.4%、レンジ:▲18.0%～▲6.6%)となり、輸出入ともに前年比での下げ幅が拡大した。品目別にみると、輸出については、自動車(前年比▲50.6%)、自動車の部分品(同▲39.2%)、原動機(同▲34.7%)などが減少に寄与した。輸入については、原油価格などの商品市況の大幅悪化を受け、原粗油(同▲43.7%)、石炭(同▲23.0%)などが減少に寄与した一方、織物用糸・繊維製品(同+124.5%)、医薬品(同+27.3%)が上昇に寄与した。

季節調整値でみると輸出金額は前月比▲10.4%、輸入金額が同+0.2%となり、貿易収支は▲9,963億円の赤字となった。輸出が大きく減少した一方、輸入はほぼ横ばいとなった。

4月は世界各国で行われた都市封鎖などの経済活動制限の動きを反映し、輸出が3月からさらに大きく落ち込んだ。足下では、各国で経済活動再開の動きがみられるも、段階的なものにとどまっていることから、輸出の持ち直しはあくまで限定的なものにとどまるだろう。

○実質輸出は前月比▲13.8%と大幅マイナス、欧米向けを中心に大きく落ち込む

為替などの価格変動の影響を除いた4月の実質輸出は、前月比▲13.8%(3月:▲3.5%、実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算)となった。自動車等の輸送用機器(前月比▲34.8%)、一般機械(同▲11.4%)などが大きく落ち込んだ一方、医薬品など化学製品が前月比+2.2%と増加した。

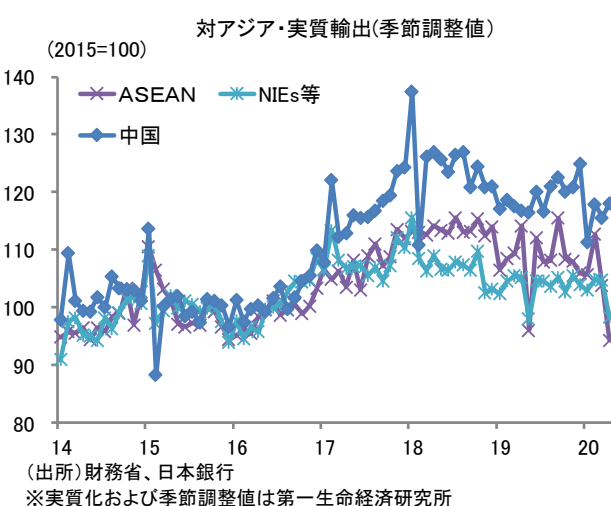
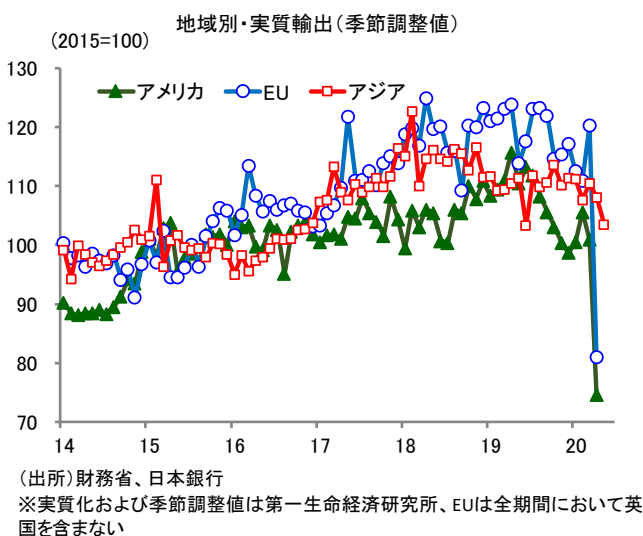
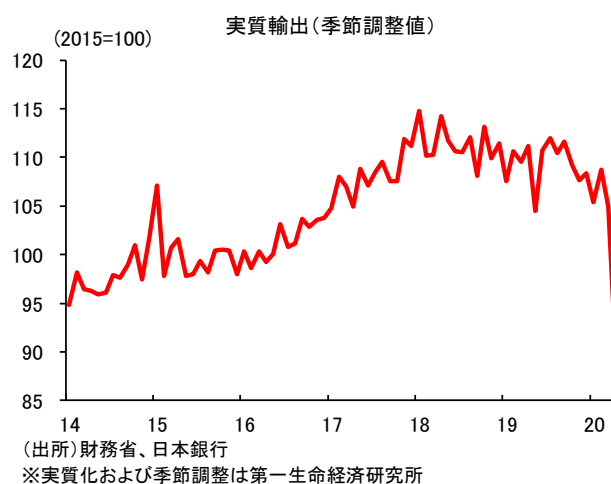
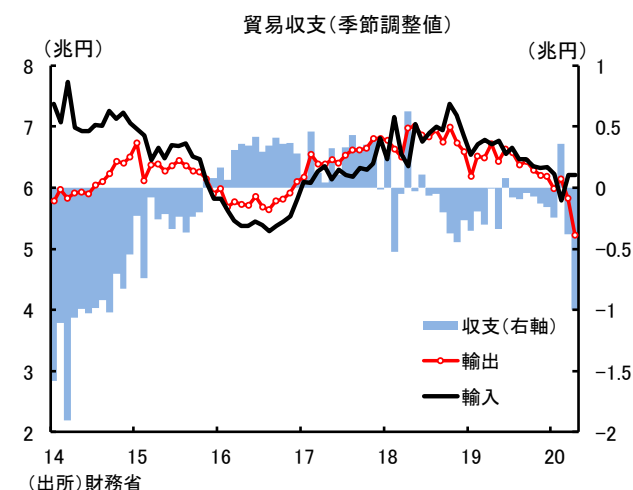
米国向けは前月比▲26.1%と3月から大きく落ち込んだ。輸送用機器(前月比▲52.6%)、電気機器(同▲26.8%)などが大きく減少した。また、アジア向けも同▲4.4%と下げ幅が拡大、輸送用機器を中心に減少している。一方、中国向けについては同+2.2%と、いち早く経済活動が再開したことを

受け、実質輸出は増加に転じたとみられる。

○経済活動再開の動きも、4－6月期の輸出の大幅減は避けられず、その後の持ち直しも限定的に

4月の貿易統計では、新型コロナウイルス感染拡大による世界的な経済活動制限を受け輸出が大きく減少、季節調整値で貿易赤字額は大きく拡大した。輸入については、前月比で横ばいとなっており、中国からの輸入増加（前年比+11.7%）などが下支えとなった形だ。

新型コロナウイルスの新規感染者数増加ペースの鈍化を受け、世界各国で経済活動再開の動きがみられている。それを受け、4月、5月を底に輸出が持ち直すことが見込まれるが、4－6月の輸出は前年比▲20%近くの落ち込みとなる可能性が高い。また、再開はあくまで段階的なものにとどまっていることから、その後の持ち直しも限定的なものとなるだろう。輸入についても、4－6月は国内景気が大きく落ち込むことが想定されていることに加え、原油価格の低迷が下押し圧力となることから、停滞が続くとみられる。また、経済活動再開後の新型コロナウイルスの感染再拡大により、経済活動の制限が再度強まることもリスクとなる。2020年度は欧米を中心に世界経済の大幅な下振れが予想されており、輸出入の持ち直しには時間を要する可能性が高い。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。